常磐文藝

高月會

短夜

短夜の盗人逃げしさわぎ哉　牛玉

旅に病んで明け易き夜の明け難き　仝

園碁の座や歎聲歎聲明け易き　大北

遺兒抱いて告別悼む夜短し　牛城

短夜や廓を出で〻歸る人　不染

犬子十生れて居たり明け易き　叟石

短夜を竹馬の友と明しけり　閑月

排日を論ず草野の短き夜　夢吉

三頭の護憲組閣や明け易き　耕影

縱横の排米論や明け易き　仝

短夜や朝路の豫定日は高し　紅陽

歸休兵の一夜話や明け易き　松童

駈落を追手急ぐや明け易き　雪村

一册の代金で御希望通りな五册の雜誌が自由に讀める

平町長橋町三五　川崎巡回文庫

（申込次第規則書進呈）

『別仕立夏トンビ！
洋傘
夏帽子
新荷着』

平町四丁目　鶴屋　電話一四〇番

亡息武雄　葬儀の際は多大の御香奠を賜り殊に御多忙の節にも不拘遠路御會葬被下難有奉深謝候
右不取御禮申置候
大正十三年七月七日
父　高橋龜松
親戚總代
友人總代

寄附者芳名廣告

小計壹千參百拾五圓

一金參拾圓　吉田由三郎殿
一金參拾圓　吉田伴吉殿
一金拾圓　鈴木雄次殿
一金參拾圓　大津賀善吉殿
一金拾圓　森本盛一殿
一金拾五圓　白菊支店殿

累計壹千四百四拾圓也

大正十三年七月七日
大瀧發電所
許可反對　同盟會

こりや驚いた。誰でも驚く。馬鹿に値が安いぢやないか。

ピスケット百匁　金二十錢

平町四丁目　ヤトモツマ
振替　シモ　シモ
仙臺　二　一
六　四　四
四　一　三

品質の金庫は本位東京荒木製に限る

福島　茨城縣下代理店　平驛前　高野得助商店　電話三二六番

◆御申込次第カタロク進呈仕候

醸造元　鹽屋本店　電話二七番

株式　賣買中値

左記の値段は本日の標準値に付御用の節は御問合願候

銘格	拂込	時價
磐城銀行	五〇〇	四五三五
平銀行	五〇〇	七〇〇
磐越銀行	一二五	一〇五
磐城實舊	五〇〇	四三〇
磐城實新	三〇〇	二九〇
田村實銀	一二五	一二五
四倉銀行	一七五	一七五
農工銀行	二〇〇	二四五
同　新	一五〇	一八八
百七銀行	五〇〇	五五〇
同　新	一二五	一六〇
七七銀行	一二五	九八
郡山電氣	五〇〇	三六五
同　新	二五〇	一六〇
只見川電	一二五	六五
植田水電	一二五	一五五
好間水電	一二五	一三〇
磐城建物	一二五	五〇
磐城製菓	二〇〇	四〇
平信託	五〇〇	二五〇
磐城勸業	一二五	一三五
植田物産	三〇〇	二六〇
平製氷	二五〇	二三〇
好間軌道	五〇〇	三三〇
入山新	三二五	一七〇
小田炭礦	二五〇	六〇
磐城炭礦	五〇〇	四一〇
同　新	二二五	一八〇
磐城セメント	五〇〇	六六〇
同　新	二五〇	三四五
平運送	一二五	八〇

賣買誠實懇切機敏に御取扱申候間多少に不拘御用命願候

平町田町　電話三二二番　丸登株式店　川添房二郎

常磐毎日新聞

七月七日夕刊

價（一部金貳錢　一月極ニ限リ料金貳拾錢）　廣告（五號十二行一日金五十錢）　休刊（日曜大祭祝日ノ翌日）

發行兼編輯人　印刷人　川崎文治

福島縣石城郡平町字長橋町卅五番地　發行所　常磐毎日新聞社

福島縣石城郡平町田町卅六番地　印刷所　一〇活版所

寄書

他力の利用（二）

中山雅司

それと聊か趣きを異にするが、いづれの社會に於ても其椅子に就いて了へば、反り返る位の藝當は誰れにも出來る、只困難とする處は、前述の如く望んで居る位置が容易に得られない事である。

是れがためあたら、有爲の器を抱きながら、空しく老ひ朽ちたり、或は徒らに自棄を起したりして、一生を落魄の域に沈み、遂に脱し得ない者が何人あるか分らぬ。

そこで苟も社會的活動をなさうとするには、必や他人の力を借らねばならぬ、所謂目上の人の引立てを受ける事は、啻に凡夫の出世に缺くべからざるのみならず、勝れた腕、非凡な才を持つ傑物に取つても、猶且大いに其必要を感じない譯には行かぬ。

かう言ふと反對論者がすぐ續出する

『そんなケチ臭い料簡ではとても大人物になれない』

とまた國民一般さう言ふ傾向になつては、依頼心ばかり強い人間が出來て、自立自營の獨歩的精神が乏しくなる、と一應むもに聽える、が是れは事實と矛盾し、理論と錯誤した一種の痼我慢的提唱である、筆事は思ふ他力を依頼しないで、反對に自分の力のみを頼つて居る人は、天を怖れぬ大馬鹿者であつて、爲す事多くは失敗蹉跌、もし出來たにしろ事は少さい、故に人生事業の大小は他力を利用する事の大小に依つて別る、と言ふ事になる。

個々の自力より轉じて總合の他力に移り、壇獨の單行を覆へして利用の複行に赴くのは、總ての方面を通じて開け行く世の現象であり、成功を欲する者の常に採るべき道である。

× × ×

彼れが水利權放棄を決意する迄

知事官邸に於ける最後の裁き

香坂知事の理路整全たる追求に利權慾に冒された栗原氏が屈服

佐瀬課長此間を斡旋

斯くて平町の三萬町民勝つ

平三萬町民擧つて反對せる大瀧發電所が栗原欣次郎氏の水利權放棄に依つて解決を見るに至つた事は香坂知事の鮮やかな一大手腕の發揮に據る處甚だ大であるが知事官邸に於ける四日午後一時から同八時迄六時間に亙る香坂知事對小田吉次、栗原欣次郎の兩氏間に交はされた左の問答大要に依つて其折衝の輪郭を知る事が出來るであらう

知事對小田氏の問答

知『大瀧發電所の水利權を小田炭礦より平電氣企業社に讓渡せるは事實なるや』小『事實なり』知『貴下は電氣事業規則を知れるや』小『心得なし』知『規則の詳細は是れを心得ざるべしと雖も最初自家用として出願せる發電所の水利權を他に讓渡して差支へなきものと信じられるや』小『總べては栗原を信頼せる結果にて最初は差支へなきものと信じたるも今日に及ひて其不可なるを知るに至れり』知『何故に水利權を讓渡したるや』小『水害及ひ東都震災の影響を蒙り炭礦經營困難に陥り坑夫等に對する米鹽の資にも窮せる結果なり』知『然らば現在は自家用として發電所經營の意志ありや否』小『全々其意志なし』知『水利權放棄の意志ありや』小『事實上水利權は栗原の手にあるを以つて同人の同意を得ざる以上余としては答へ難し、而し余一箇の考へとしては事今日に及んでは勿論水利權放棄の至當なるを信ず』

知事對栗原氏の問答

知『貴下が小田炭礦より水利權の讓渡を受けたるは事實なりや』栗『讓渡を受くべく決議は是れを爲したりとも未だ公式の手續きに及ばざるを以て實際上の効力は發生せざるものと信ず』知『大瀧江筋組合が平電氣企業社に提出せる發電所設置の同意覺書第九條に平町の同意を得ざれば企業社との間に覺書の効力發生せざる由の條項あるを貴下は知れるや』栗『そは知らざるを以つて歸平後よく調査すべし』知『企業社の代表者たる貴下が斯かる明らかなる事實を知らざる筈なく徒らに言を左右に託して知らずと云ふは貴下の遁辭なるべし』

『貴下は電氣事業に委はる事十三年に及び最も斯界に深き經驗を有する故に今後前途ある身に拘らず平多數町民が反對を叫びつつある發電所經營を無理にも飽迄遂行せんとするは貴下の前途を甚だ誤るものにして今回の場合に際しては是れを男らしく斷念し水利權を放棄するを妥當なりと信ず』

と大いに反省を迫つた結果始めて栗原氏は大勢非なるを悟り水利權を放棄して其出願書を取下ぐべく決意するに至つたのである

佐瀬氏も共に放棄を力説

斯くて香坂知事は平三萬町民の意志に逆行して發電所設置の計畫を斷念せざる事の不利益なるを說き且水利權放棄に關して言葉を極めて勸告する處あり此間同席して一語も發しなかつた前石城郡長佐瀬農商課長は始めて口を開き

知事の聰明なる裁斷と町長の强固なる意志

此二本の直線の結合が問題の解決を早めた

大瀧發電所の水利權放棄に關して小田吉次氏と福島へ同行し知事との會見に終始立會つた磐越銀行頭取中野甲藏氏が問題解決の上に

多大の 力を注いた事は衆目の比して是れを認める處である最初疑つたのは誤りであつたと今では各方面から感謝の意を以つて迎られて居るが中野氏は謙遜して語る『私としては平

大瀧發電所の水利權放棄に關して小田吉次氏と福島へ同行し知事との會見に終始立會つた磐越銀行頭取中野甲藏氏が問題解決の上に

多大の 力を注いた事は衆目の比して是れを認める處である最初疑つたのは誤りであつたと今では各方面から感謝の意を以つて迎られて居るが中野氏は謙遜して語る『私としては平町百年の大計を樹立する上に於て是非共許可取消の達成を圖らねばならぬとの考へから微力を揮つて唯町民の一人としてお力添えを致した丈であつたのですが

非常に 速やかに事の解決を見たのは御同慶至極です斯く速やかに事の段取りが進行するを得たのは香坂知事の聰明なる裁斷と伊坂町長の强固なる意志とこれ

ちになれます、普通フノリ一枚にメリケン粉二た握りを熱い湯で濃い位にとかしていねいに洗ひそしますと次にそのどろどろした中へ湯をさして薄目にしたものでゆすぐやうに洗つたのち湯でゆすぐのですが、よくかはいてから粘はないとよごれやすく却つて臭氣を殘すやうになりますから注意せねばなりません、この髮洗ひは少くも一箇月に二度位は致したいものです洗髮につける油は植物性のものがよく髮のためにもまた結ひ具合もさら〳〵と意のまゝに髮が結へます油は鑛物性のまがひものが多うございますが香入りのツバキ油などはもつともいゝものとされて居ります。

此二本の直線の結合が事の解決を早めた次第でありまして實に大平町將來の爲めに滿足此上もない事です』

内務省技師が平水道視察

細密な調査を

大瀧發電所問題に關聯し平町上水道を視察せんが爲め内務省土木局技師川口協介氏は齋藤本縣衛生技手と共に昨日來平水源地及び過地、沈澱池、配水池其他送水管等を細密に調査し水質を檢査して今朝歸京した

不平受付

縣道へ土臺が　今建築中の三丁目大谷久藏氏の店舗土臺は縣道に一尺ばかり出て居ますあれでも當局が默つて居ては縣道盗用者が增いて來ます（道路注意人）

▽渡邊土木監督所主任の答　新築店舗の土臺は元の土臺の上に築かれたものであつて洋館の爲め斜めに見ると縣道へ出て居る樣に見えますが調査の結果少しも縣道を冒して居ない事が判明しました

常磐片々

○
平三萬町民結束の力に對しては天下に敵なし

○
栗キン遂に兜を拔く

○
何時の世にも正義は最後の勝利を納む

○
此際平町民は祝はずして又何時の日か祝ふ日あらん

○
唄へ踊れ高らかに絶叫する萬歳の聲を以つて不景氣々分を一掃せよ

○
而して大いに勝利を享樂せよ

南裡新道路を根幹とし劃然たる市街を建造

公共的觀念に訴へんと……平町役場の方針

平町南裡新道路は既に八分通りの工事進行を告げ來月中には全部の竣工を見るに至る豫定であるが其曉に愈々出現すべき南裏新市街地は各地主の公共的觀念に訴へ劃然たる市街を造營せんとて町役場にては大要左の如き方針にて各地主の諒解を求めて居る

一、家屋建設修繕に方つては道路若くは溝渠溝畔の境界より一尺五寸以上保留するは民法上の規程なるにより此等の事業を營まんと欲する時は必ず管理者の立會を求める事

一、各自店頭の路面に管理者の承認を得ず猥りに上置を爲し路面に不陸を生するが如きは交通上障碍不尠に付豫め管理者の承認を求める事

一、不用物品若しくは塵芥等無許可にて猥りに路傍に推積せざる事

◉小暑　本日は小暑に當り舊六月節これから漸々暑くなる

老婆投身して救はる

氣の毒な運命

平町字材木町山野邊ツル實

喜びの聲は高し
發電所問題の
解決を祝して

◇

腰折左に　城南閑人

今迄は栗きんとんと甘く
見て平の人の腕の辛さ世

◇

祝平水道　酒井國三郎

大瀧の水平上淨し郭公
空の魔に颱風一過五月晴

母須藤フヨ（六九）は五日午後三時頃幕内橋から夏井川に投身して押流され自殺を圖つた折柄磐城炭礦發電所の職工鈴木三郎、吉田長十郎新妻與一の三名に救助されたがフヨは以前北海道に住む長女イトの許に厄介になり居たるも虐待を受けて追ひ出され七女に當る前記ツル方に至つたが財政不如意の模樣である爲め永く世話を掛くるは氣の毒と思ひ死を決するに至つたのである

カテイラン

夏の髮洗ひ

これから暑さが加はつてまありますと外出から歸つた時にはほこりと汗で頭の髮は氣持が惡く臭氣を發しますが、髮洗粉も簡單でよろしいものですがフノリとメリケン粉を湯でといて洗ふとさつぱりとしたよい氣持

平町人事

▽出生
△四丁目　綠川安吉氏七男力

▽婚姻
△番匠町　田中正恕氏（三三）　滋賀縣東殘井郡琴巾恒尾（二二）
△三丁目　鈴木四郎氏（二三）　石城郡平窪村大場イナ（二五）
△安積郡丸守村添田三郎氏（二六）　田町猪狩ユイ（二〇）